

平石の自然豊かな環境で
丈夫な体と豊かな心を育てる保育



社会福祉法人 わたり福祉会
さくらみなみ保育園

さくらみなみ保育園って どんなところ？

- ▶ 田畑に囲まれた自然豊かな環境
が一番の特徴です。



＜地域交流を大事に＞

小学校との交流や、隣にある“はなしのぶ”的お年寄りとの交流、お米名人との田植えや稲刈りなど、地域に支えられ、様々な経験をしています



<遊びを豊かに>
メディアに触れる機会も多くなりがちな中、
自然や物語などのイメージの世界を友だち
と一緒に楽しんでほしい、そんな思いで保
育をしています。子ども達は自然をよく
知っています。虫探し・花摘み・野菜の収
穫、散歩、水遊び・雪遊びなど、移り行く
季節を五感で感じながら、平石の自然の中
で感性豊かに育ちます



そんなさくらみなみ保育園の自然豊かな特色を生かした2025年度の取り組みを紹介します



自然保育PART 1

【自然環境を活かした保育 ~栽培とクッキング~】

- ▶ 畑や田んぼに囲まれ、**野菜やお米**を育てています。毎日観察しながら、収穫を楽しみに待ちます。
- ▶ 園の畑で見つけて摘んだよもぎ。そのよもぎが食べられることが分かっている子ども達。そのよもぎを使って、よもぎ団子を作りました。たくさん摘んだよもぎだったので、団子の生地の色が緑に変わり、香りも良く五感をフル活用させながら作りました。その後、みたらし、きなこを絡めて味わいました。

▶ 収穫した大豆を使って味噌を作ったり、大根を干して、しみ大根を作り煮物にして味わったりと、**身近な食べ物の作る工程**も知りながら、**クッキングやルッキング**を楽しむことも、安心安全の給食の大事な柱の一つです。また、保護者への発信も大切にしています。



自然保育PART 2

【日本の文化を大事にする保育 ~伝統文化~】

- ▶ 荒馬(年長児)・竹おどり(年中児)など、東北地方に伝わる**民舞**を保育に取り入れています。難しいステップに挑戦し、友だちと力を合わせてつながり協力し合う心も育ちます。昔から荒馬は豊作を祝って踊られてきました。保育園の稻刈りの後、さくら保育園（系列園）と荒馬発表会をします。
- ▶ 伝統文化の一つとして、**和太鼓**にも取り組んでいます。子どもも職員も太鼓の取り組みでプロによる指導を受け、夏まつりなどで発表しています。
- ▶ 親子で**伝統文化**に触れたり、プロの演技に触れたり、直接体験することを大切にしています。



自然保育PART3

【子どもの思いを表現する保育～造形美術～】

- ▶ 自分たちの手で植えた米の苗が、「このなかに おこめがあるんだね」「ここは ちゃいろじゃなくて みどりだね」と見て気付いたり、子どもの心が動いた時、それを表現し、大好きな誰かに伝えようとします。表現方法の一つとして、作ったり、描いたりする**造形美術**があります。



おいしい
おもちになーれ

- ▶ 様々な素材や技法に出会い、絵の具の濃淡を発見し「いろがうすいのは みずがおおいからなんだ」と子どもの表現したい思いを大事に取り組んでいきます。



自然保育PART4

【地域とのつながりを大事にする保育～地域交流～】

▶ 保育園は、地域の方々に見守っていたきながら毎日の生活を送っています。散歩先で声をかけてもらったり、田植えや稲刈りをお手伝いいただいたり、地域の小学校との交流があったり、**地域の方とのつながり**で子どもたちの経験の幅も広がります。同じ平石地域にある高齢者施設に民舞を披露しに行ったり、田植えや稲刈りを通して、交流を続けていきます。



自然保育PART5

【保育を発信したい ~保育の見える化~】 ドキュメンテーションの活用

・ **写真などを活用**しながら、子どもの素敵なところ、心が動いたところ、**子どもの気づきや魅力を記録**することです。写真とコメントを使って伝え、目に見えるように可視化した成長記録の書き方です。

・ 「〇〇しました」だけの記録ではなく、**子どもや保育者の心が動いた場面の記録**であることが大切です。

保育者が子どもの姿にワクワクした記録だからこそ、保護者にも結果的に伝わる魅力的なものになり、**発達の見える化**を可能にした記録の取り方です。

おこめは やさしくだよ
だんだん みずが しろくなると
おいしいおこめになるよ



ドキュメンテーションの意義

- ▶ 保育ドキュメンテーションは、働き方を変えると同時に保育の質を高める対話のツール。
- ▶ 自分との対話(毎日のちょっとした振り返りで子どもへの理解が深まります。)
- ▶ 同僚との対話(同僚と話し合う風土ができ、人間関係を良好にします。)
- ▶ 保護者との対話(保護者に保育の見える化がなされ、自然豊かな環境下での保育や生活体験を共有することで、保育内容が伝わり保護者との信頼関係が深まります。)
- ▶ ICT化で時間短縮、あれもこれも別々に書くのを軽減させ働き方改革にもつなげることが可能です。

参考：①第48回全国保育士会コース別研修

“保育の見える化に向けたドキュメンテーションの活用”

玉川大学 大豆生田啓友氏より

②『写真とコメントを使って伝えるヴィジブルな保育記録

のススメ』鈴木出版株式会社

小泉裕子、佐藤康富氏著書より

日誌例

子どもの様子

すいか組

6月12日(木) 記入者

ちからをあわせるためのTシャツ

今日は合宿で着るTシャツの色の話し合いをしました。「おなじふくきてちからあわせるんだよ！」と向葵さん。何色のTシャツにしたいか、なぜその色のTシャツにしたいかを話し合いました。みんなの前で自分の気持ちを話すことがドキドキしていた陽菜乃さんや、尚香さんも自分から手をあげてみんなに話す姿がありました。合宿の話し合いを通して自分と向き合い、自分の気持ちをみんなに伝えることの大切さを子どもたち自身が感じられるような話し合いをしていきたいと思います。今日は決まらなかったのでまた明日決めたいと思います。

一人ひとりにTシャツの色と理由を聞きました。理由が「かわいいから」と話す友だちがいると、「かわいいいろはちからにならないってなつみせんせいってたよ」と向葵さん。それを聞き、もう一度考えてみる子どもたちの姿もありました。



げんはていーしゃつ
つくりたくないんだ
いやなんだ



玄くんが急に涙を流し始める、「どうしたの？きくよ」とみんながそばにきて力を貸してくれています。昨日おやつの前に悲しい思いを自分の言葉で話すことが難しく、友だちに力をかしてもらった琴葉さんも、「次は自分が聞いてあげる」という気持ちで玄くんの話を聞いています。

げんなんかいえるかも！
げんはね ろぼっとかみいがいろいろなもの
(お手紙)わたしてくれたり いろんないろも
ってるからにじいろがいいんだ。にじいろっ
ていうのはねきいろとみずいろとあか！
(ロボットカミイの体の色と、涙の色、口の
色の赤)



みんながきてくれたから
げんは(自分の気持ち)いえたんだ

ドキュメンテーション例

荒馬の色付けをしている時、裏面をどうやって色付けをしたらいいか困っている友だちに分かりやすく教えてくれる姿がありました。自分が経験したことを、友だちに教えること、どんな風に伝えたら分かるかなど考えながら、関わり合う姿があった取り組みでした。



今年度の取り組みまとめ

1, 自然環境を活かした保育 ~栽培とクッキング~

→毎月の給食だよりで、職員の朝食についてのエピソードを掲載し保護者に対して朝食の大切さを発信している。『食べることは生きること』と理解を深めるため、
子どもと保護者に親子クッキングなどを通して伝える。

2, 日本の文化を大事にする保育 ~伝統文化~

→昔から東北地方に伝わる伝統文化に触れ、豊作を祝って踊られた由来を知る。
職員と保護者で太鼓の取り組みをしながら、夏まつりの中で披露する。

3, 子どもの思いを表現する保育 ~造形美術~

→自然の中で経験した思いを、造形美術を通して様々な素材を使って自由に表現する。

4, 地域とのつながりを大事にする保育 ~地域交流~

→地域の米名人に稲作を教わり、直接体験する。地域の農家に果物を買いに行き、
その果物でクッキングや給食で使用している。

5, 保育を発信したい ~保育の見える化~

→ICT化を導入し、保育日誌や給食だより、園だよりなどをコドモンで保護者に
配信している。

よもぎだんご できたら
なにのあじで たべる?



びろーん